

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成してください

保険者名	貴自治体において第9期介護保険事業計画に記載している内容						令和6年度(年度末実績)				公表の状況	
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第9期計画における「取組」	「目標」 (事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策	実施状況	公表の方法
坂戸市	①自立支援・介護予防・重度化防止	介護予防普及啓発事業	高齢者が介護を必要とする状態となる背景には、加齢に伴って心身が衰え、社会的繋がりが弱くなった状態である「フレイル(虚弱)」がある。健康寿命を延伸し、自分らしい生活を送るために介護予防が重要であることから、市民へ広く普及啓発していくことが課題である。	フレイル予防教室、すこやか脳クラブ、元氣アップ教室等の各種教室を通して、市民へフレイル予防について普及啓発を行う。	介護予防事業参加数の確保	なし	介護予防事業参加人数【実績】令和6年度1671人	○	多くの方が各種教室に参加でき、アンケートにも事業に対して満足したという回答があったため。	フレイル予防についての認知度を上げるために、引き続き各種教室を通して、普及啓発を行っていく。	実施	HPで公表
坂戸市	①自立支援・介護予防・重度化防止	地域介護予防活動支援事業	高齢者が在宅生活を継続するためには、身近な地域で健康づくりや介護予防に取組むことのできる体制を整える必要があることから、リハビリテーション専門職や地域包括支援センターと連携しながら「さかどお達者体操」等に取組む自主グループ活動の支援を行っているが、自主グループの継続・充実、介護予防サポーターの不足が課題である。	リハビリテーション専門職や地域包括支援センターとの連携を図ること、介護予防サポーター養成講座を実施し介護予防サポーターを増やすこと、未活動者のサポーターと既存のグループを繋ぐことを通して、既存のグループの継続・充実と新規グループの立ち上げを行う。	自主グループ数増(45団体から51団体へ)	なし	①地域包括支援センターと連携し、様々な機会をとらえて、各種団体にお達者体操の周知・啓発を行い、自主グループの増加につながるよう取り組んだ。グループ数は45団体。 ②既存グループに対して、リハビリ職派遣支援を定期的に行うとともに、希望制で実施した。32回実施。 ③介護予防サポーター養成講座を実施しサポーターを育成した。令和6年度受講者数は15名。	○	(参考)令和5年度実績 ① 45団体 ② 47回 ③ 16名 令和6年度は、自主グループ団体数は維持、必要に応じてリハビリ職派遣支援をできたため。	高齢者が在宅生活を続けられるように、引き続き身体活動、社会参加を促進するための取組を継続していく。	実施	HPで公表
坂戸市	②給付適正化	ケアプランの点検	利用者のニーズに対応した適切な介護保険サービスが提供されることは、介護給付に要する費用の効率化を図り、介護保険制度の強化につながることから、質の高いケアプランの作成が課題である。	介護給付の適正化の推進	主要3事業の継続実施	なし	ケアプランの点検を行う事業所数 3事業所【実績】令和6年度 3事業所 令和7年度 3事業所(予定)	○	計画の目標値としては達成しているが、給付適正化の観点からみると実施事業所を増やすことが望ましいため。	高齢者人口の増加に伴い、今後さらなるサービス利用者の増加が見込まれるため、それに対応できる人員体制の確保や委託化の検討が必要である。	実施	HPで公表
坂戸市	②給付適正化	要介護認定の適正化	利用者のニーズに対応した適切な介護保険サービスが提供されることにより、介護給付に要する費用の効率化を図り、介護保険制度の強化につながることから、適切な認定調査に基づく要介護認定がされることが課題である。	介護給付の適正化の推進	主要3事業の継続実施	なし	認定調査票及び認定調査票特記事項の内容確認 全件【実績】令和6年度 全件 令和7年度 全件(予定)	○	確認により認定調査の質の向上につなげることが望ましいため、市の認定調査員による全件確認を実施している。	認定調査員に対する研修の実施を継続することにより、認定調査の質の向上に努めていく。	実施	HPで公表